

平成26年度愛知県がんセンター公開講座(第5回)のご案内
「がんの個別化治療～乳がん、肺がん及び大腸がんの今日における治療戦略に
ついて～」

= 平成26年11月9日(日)開催 =

＜ 講師からのメッセージ ＞

「ここまで進んだ乳がんの個別化治療」

乳がんは年間7万人以上が罹患する女性の中で最も多いがんです。治す為には手術は最低限必要であり、それ以外に薬物療法、放射線治療を適宜組み合わせる治療をするのが標準治療です。手術の方法は温存手術の他に同時再建手術（乳頭を温存など）が広く行われるようになりました。放射線治療も回数を減らすだけでなく、手術の最中に施行するなど先進的な取り組みも行っています。薬物療法では分子標的治療の開発により、癌の個性に適応した治療を選択し、良好な結果を得ています。自分の希望に沿った、最適な治療を受けることができる時代と言えます。

乳腺科部 部長 岩田 広治

「個別化がすすむ肺がんの最新治療」

近年の医学の進歩によって、抗がん剤治療は大きく変わってきました。特に肺癌領域では、遺伝子異常に基づいて治療薬（分子標的治療薬）を選択する個別化治療によって、従来の抗がん剤治療と比べて遥かに凌駕する治療効果を示すことがわかってきました。

今後も遺伝子異常に基づく個別化治療の流れは、益々すすむものと考えられており、本日は肺がんにおける個別化治療の現状とこれからの方向性について紹介いたします。

呼吸器内科部 医長 吉田 達哉

「大腸がんにおける薬物療法の最前線～標準的治療と個別化治療～」

大腸がんの薬物療法の治療成績は、近年格段の進歩を遂げております。有効な抗がん剤の種類が増え、また、分子標的治療薬という新たな作用機序をもつ薬剤が次々と臨床現場に導入されて、「標準的治療」と呼ばれる最善の治療法が幾つも確立されてきたことがその大きな要因です。さらに、大腸がん患者さんの約50%を占めるRAS野生型の遺伝子型を持つ人に抗EGFR抗体薬という薬剤を選択的に行う、いわゆる「個別化治療」が実践されるようになってきました。適正な治療を遂行するためには副作用を最小限にする工夫と対策を講じる必要があります。

「がんと闘うな」とか「がん放置療法のすすめ」とか、がん治療に関する歪曲したマスコミ報道は極めて由々しき事態であると考えます。本講座では、大腸がんにおける薬物療法の現状を正しく理解していただくことがねらいです。

薬物療法部 部長 室 圭